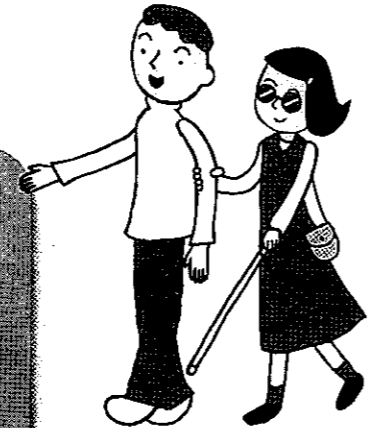




【特集】さあ、手をさしのべよう

〜今日からできる介助法〜



障害者のために役立つことをしてみたい。
あるいは、まちを歩いていて障害者に手助けを求められたが
どう対処していいかわからなかった。

そんな夢や経験をお持ちの方も多いかと思えます。
そこで、ありばでは「今日からできる介助法」として、
障害者介助の基本をご紹介します。



VOL. 4
2002

福祉のまちづくり広報誌

ありば

CONTENTS

表紙イラスト
大原雅代「輝きながら」



ありば
ヒューマンドキュメント
始良町「いちごくらぶ」 PAGE 6

ハードルを越えて PAGE 8
鹿島 一朗さん

ありば通心 PAGE 9
視覚障害者バンド「トリプル・ツイスター」

バリアフリー最前線 PAGE 10
栗野工業高校（始良郡栗野町）
コールはらら（鹿児島市原良町）
癒しの郷「カレン」（曾於郡有明町）
鹿児島自然学園（日置郡山町）
【コラム】シーサイドハウス、手話サークルZERO

ありば掲示板 PAGE 12
バリアフリーふれあいスポーツ講習会開催
第四回種子島サンセット車いすマラソン大会

鹿児島県からのお知らせ
PAGE 13

【特集】

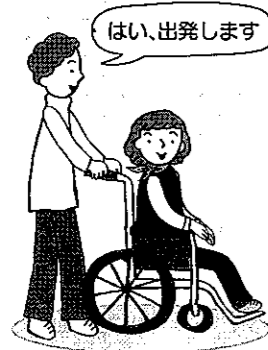
さあ、手をさしのべよう PAGE 1



表紙イラスト—大原 雅代さん プロフィール
1977年鹿児島市生まれ。ダウン症という障害を持ちながら、19歳の時に始めたという
油絵は、特別な理論も技もないまったくの自己流で、しかもありあわせの画材で描かれ
ている。「絵を描きたい」という素直な気持ちで描かれた彼女の作品は、大胆な構図と
色使いの中にも、見る人にぬくもりと夢と、勇気と可能性を与えてくれる。1996年第14
回日本女流展入選。1999年第39回日本先天性異常学会会場にて作品展示。

3.車いすの押し方をマスターしよう

(1)押し方の基本



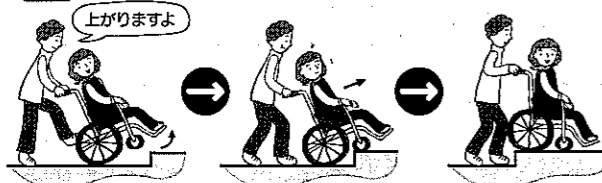
ハンドグリップをしっかり握り、真後ろから押します。停止して車いすを固定する時は、片手でハンドグリップを持ちながらブレーキをかけます。反対側も同じ要領で。



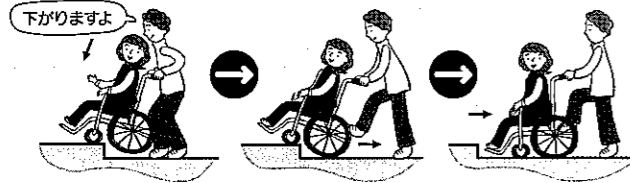
押す前に、「はい、出発します」とひと声かけてから、ゆっくり押します。

(3)段差があるところでは

上り 上りの場合は、ステップバーを踏み込んでキャストを浮かせ、キャストを上段ののせてから大車輪を引き上げます。



下り 下りの場合は、乗っている人が後ろ向きになるようにして、まず大車輪をゆっくり下ろし、ステップバーを踏み込んでキャストを浮かせて後ろに引きます。



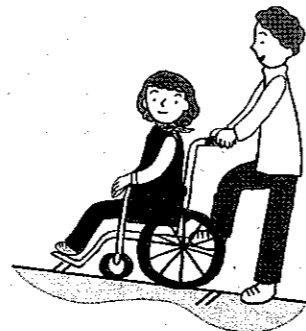
(段差を上る時は「上がりますよ」、下る時は「下りますよ」と声をかけます)

(2)坂道では

上り 上りの坂道では上半身を前に傾け、押し戻されないように押します。



下り 下りの坂道では、車いすを引き止めるようにゆっくり降ります。



下り 急な下りや恐怖感を伴う坂では、乗っている人を後ろ向きにし、ブレーキをかけながらゆっくり降ります。(判断に迷う時は「どちらにしますか」とたずねましょう)

(4)溝を越える時は

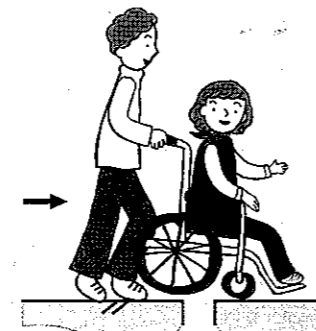


1. ステップバーを踏み込んでキャストを上げ、溝の向こう側まで押します。(溝を越える時は、「溝を超えます」と声をかけます)

2. 溝の向こう側でキャストを下ろします。



3. 大車輪を浮かしながら溝を越えます。



注 車いすを使用する人には上体の力が弱い方もいますので、段差や下り坂等で前かがみになる場合は、ずり落ちないように注意して介助します。また、下半身に感覚のない方もいらっしゃるため、足をどこかにぶつけてケガをしたり、フットレストから足が外れて地面を引きずることがないように、動き出す前にフットレストに足が乗っているか必ず確認してください。

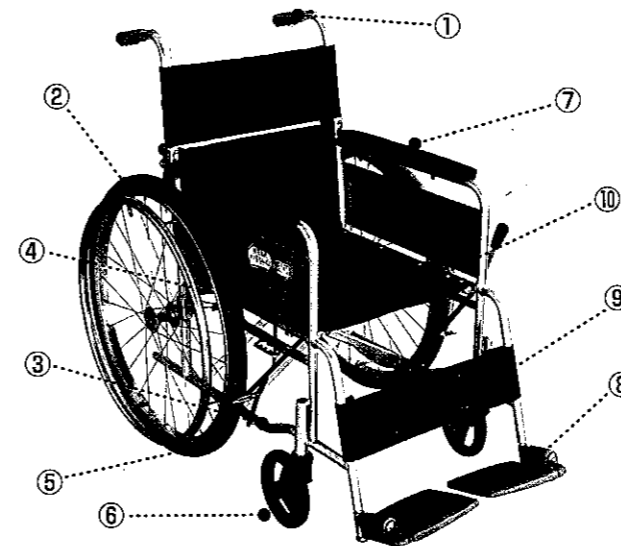
【特集】

さあ、手をさしのべよう

車いすガイド編

障害者にとって、車いすは自分の体の一部です。しかし、重量もそこそこあり、場所を取り、手を使って動かさなくてはなりません。建物内や町中は決して平らな所ばかりではありませんので立ち往生するケースも出てきます。そんな時、まず車いす使用者に何をして欲しいかをたずねてから、手を貸してあげましょう。

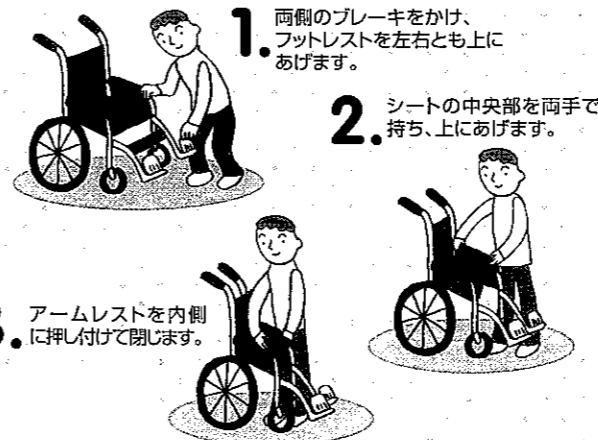
1.まず、車いすの各パーツの名前を覚えよう



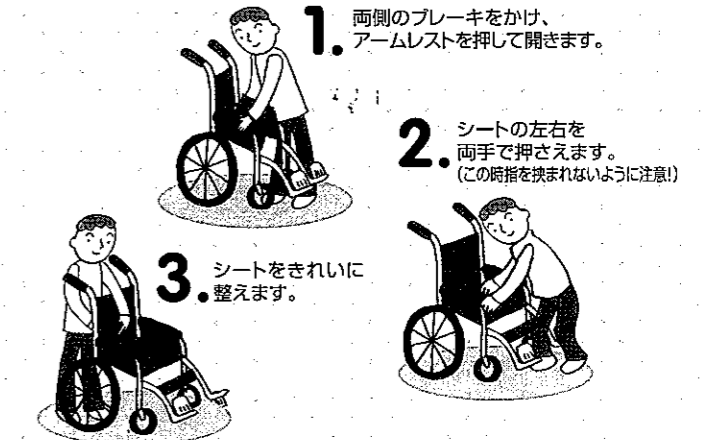
- ①ハンドグリップ(介助者用にぎり) 介助する人が、車いすを動かす時に使います。
- ②ハンドリム 使用者が車いすを動かす時に使います。
- ③ステップバー 段差や溝を越える時に介助者が使います。踏み込むとキャストが浮くようになっています。
- ④ブレーキ 車いすが動かないよう固定する時に使います。
- ⑤大車輪(後輪) 駆動輪で前進・後退ができます。
- ⑥キャスト(前輪) このキャストを浮かせて溝や段差を越えます。
- ⑦アームレスト(肘かけ) 使用者の腕を休ませ、体を安定させます。
- ⑧フットレスト(足台) 使用者の足のせです。
- ⑨レッグレスト 使用者の足がフットレストから後ろへすべり落ちないようにするためのものです。
- ⑩シート 使用者の座席です。

2.車いすの基本的な扱い方は?

(1)車いすのおりたたみ方



(2)車いすのひろげ方



お役立ちコラム

「坂が急なところはバランスをくずしやすいので手を貸して欲しいですね。」

と車いす使用者の恵 朝子さん



自分の車いすを買ってちょうど1年、今リハビリに動いているところです。まちを車いすで移動していて、いちばん困るのは急な坂です。たとえば橋の真ん中は思ったより高くなっていて、距離は短いのですが腕力だけでは登りきることができません。バランスを崩しそうになるので、ちょっとだけ押してもらえると助かります。それとバスに乗る時、車いすは高さがないので、運転手さんが見のがしてしまうケースがよくあります。まわりの方が声をかけていただけるとありがたいですね。

column



階段がある時

3. 階段や段差がある時は

階段がある時は、昇降の前に立ち止まって、階段があることを伝えます。その時、上り下りの別やだいたいの段数を教えてあげましょう。手すりがある場合は、手すりに誘導します。歩調を合わせ、視覚障害者の一段前を進んでください。

段差の場合は、階段と同じように段差の前で立ち止まり、上り下りの別とどれくらいの段差なのか高さを教えてあげます。建物の中でも、敷居などに注意を払いましょう。

段差がある時



10センチぐらいの段差を一段登ります。



お持ちしましょうか?

4. 手助けし過ぎないように

何から何までやってあげるのではなく、視覚障害者の自主性を尊重することも心に留めておいてください。荷物を持ってあげる場合など、手助けが必要かどうか確認してからにしましょう。

5. 別れのあいさつも忘れずに

ガイドを終えて、その場を立ち去る時はあいさつを交わして別れましょう。部屋の中などでは、相手が立ち去ったことが気配で感じられますが、屋外ではわかりにくいので、いつまでも付き添って続けているものと誤解してしまいます。ちょっとその場を離れる時も、ひと声かけておけば安心です。



ここで失礼します!

お役立ちコラム

「視覚障害者が信号をわたるのは大変です。ぜひ、声をかけてあげてください。」

私は昭和57年に歩行訓練士の資格をとって、視覚障害者の歩行訓練をお手伝いしています。その中で、とくに気をつかうのが信号とバス停です。視覚障害者の方は、信号機が青になっただけで判断するのがとてもむずかしいのです。もし、信号待ちされている障害者がいたら「今、青ですよ」とひと声かけてあげてください。それと、バスが来ても、どこ行きなのかわかりづらい。そういう時も、来た場所の行く先を伝えてあげてください。たったひとりで、障害者の世界がグーンと広がるのですから。

と歩行訓練士の良久万里子さん



column

【特集】

さあ、手をさしのべよう

～今日からできる介助法～

視覚障害者ガイド編

もし、あなたが視力を失ったとして、^{ほくしょう}白杖一本でまちを歩けますか。信号や車、段差や階段等があっても怖い思いをし、立ちすくむかもしれません。そうした状況では、人の声による案内や誘導が安心感を生みます。介助のテクニックも大切ですが、まずは視覚障害者とのコミュニケーションを心がけることがポイントです。

1. 言葉によるガイドについて

(1) 困っている時は、ひと声かけて

視覚障害者も、できるだけ自分の力で歩きたいと思っています。目の見えない人に出会った時、相手の気持ちを考えずに、むやみに声をかけたり手を引くのは慎みましょう。誰でも道に迷っていると、そのしぐさや様子でわかりますね。相手が困っているようだと察したら、「お手伝いしましょうか」とひと声かけてください。

(2) 自己紹介をしよう

「お手伝いしましょうか」という声かけに「ガイドをお願いします」返事があたら、まず、自分の名前を名乗りましょう。そして、どんなことで困っているのかたずねて、適切なガイドを行ってください。「ガイドを遠慮する」返事があたら、「お気をつけて」の一言をそえてその場は障害者にまかせます。



2. 道案内の際のガイド方法

(1) 歩行をお手伝いする時

肩に手をかけもらうか、肘をつかんでもらってください。白杖を持っている場合でも、このスタイルでかまいません。腕を抱きかかえたり肩に手を回すと、相手の体の自由がきかなくなるので注意してください。歩く時は、視覚障害者に歩調を合わせて歩きます。足元や周りの障害物に気を配り、歩行中でもできるだけ声かけを絶やさないように。「○公園の緑がきれいですよ」と、そうした状況説明でもかまいません。

(2) 道を曲がる時は

5～10メートルくらい手前で、「○メートル先を右へ曲がります」というように、あらかじめ説明しておきます。また、道が細い場合は、曲がる前に一度立ち止まってから曲がってください。いきなり方向を変えたり、急な動作は障害者に不安を与えてしまいます。

(3) 道順を教える時は

視覚障害者は、音やにおい、手触りといった感覚などで周囲の状況を把握します。ですから、道順を教える時は、まず右か左かをはっきりし、目的地の途中に音やにおいのある場所があれば、そうした場所を通ることを伝えましょう。例えば、「この道をまっすぐ○メートル行くと右手にパン屋さんがあります。その角を左に曲がって○メートル歩いたところですよ。」といった具合です。



5メートル先を右へ曲がります。

自分にハッパをかける場でもありました。と平野さん



親が一つになって声を出さないと。と福岡さん



会員でなくても気軽に参加できます



音楽療法を ベースにした ボランティアによる療育

障害を持つ子どもの親たちに希望と安心をもって暮らして欲しいと願う『いちごくらぶ』では、支援策の一つとして「いちごマップ」を作りました。このいちごマップはA4判20ページほどの冊子で、開くと療育手帳や身障者手帳の申請方法、近隣の福祉作業所や療育センターの所在地、公民館やバス等がイラストを添えてわかりやすく解説してあります。いちごマップが新聞に取り

上げられるや電話での問い合わせが相次ぎ、障害を持つ子どもの親がいかにも情報や交流できる場を必要としているかがわかったと言います。地区の公民館で毎月一回開かれている例会をのぞいてみると、親子が集まったところで軽快な音楽が流れました。一気に館内が活気にあふれ、障害を持つ子どもたちの目が輝きはじり、手足や体を動かしてリズムをとります。やがて、紙芝居や人形劇に音楽をミックスした療育

始長町内に住む福岡敏代さん、平野まゆみさん、吉崎久美子さんの三人は障害児を持つ母親です。「三人だけでもいいから、始めようよ」「その声とともに『いちごくらぶ』の活動が平成六年三月にスタートしました。まずは障害児者の集う場づくり、そして自分たちのストレス解消というのが活動のきっかけでした。三人の母親でできる精いっぱいのことをと、月一回公民館での例

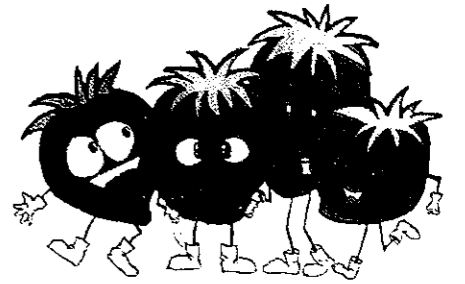
会と新聞発行が続けられてきました。こうして始まった活動も回を追うごとに会員が増え、現在五十七名、十六名の賛助会員、四つの賛助団体となっています。

平日は学校があり、例会に参加できない子どもたちも長期の休みには多数が参加します。そして七夕づくりやパーベキュー、クリスマス会等で、親子いっしょになつてワイワイ盛り上がります。でも、障害を持つ子どもの親は、障害児を持つが故の不安や葛藤がつのり、どうしていいかわからなくなることがあります。そうした時に、会員それぞれが体験の中で得たものを教え合う

こと、不安や葛藤を取り除くために必要なんです。手づくりの月報『いちごくらぶ』創刊号には各前の由来について、母(いちご)は多くの種をもっています。一粒が一粒となり、おいしい実をつけ数を増やします。私たちの会も、楽しく話たり会を重ねていき内容を充実させ多くの仲間と手を取り合いたいと思えます。

と記されています。まさに、この言葉のように、いちごは実をつけ数を増やしつづけます。

ありば ヒューマン ドキュメント



在宅障害児者をかかえる親の会

「いちごくらぶ」



わが子の障害を知った時の不安や葛藤を、少しでもやわらげることができたら



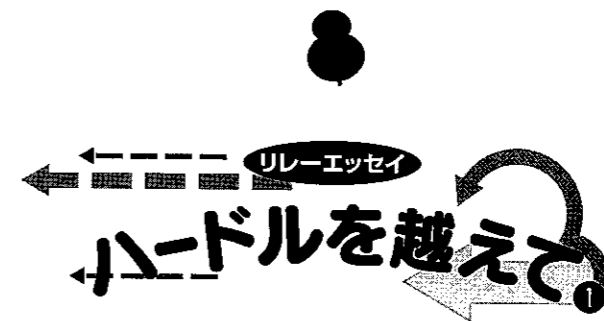
訪問では接点が多くなる。集まる場が欲しい。と吉崎さん

子どもたちの 笑顔に出会って 苦勞も吹っ飛んで しまいます

三人の母親と保健婦さんの協力でスタートした「いちごくらぶ」は、医師の助言や地域のボランティアの人たちの協力によって、規模だけではなく質的にも充実したものに育っていきましました。例えば、町の障害者福祉計画の策定への参加や子どもたちの「学校問題」や「おむつ支給」「障害児者の入浴」等の町

へのアプローチの結果、それらが少しずつ現実化してきています。「最初は無我夢中でやってきました。学校の役員を兼ねていた頃はとても大変で、もうギブアップしようと思つこともしばしばでした。でも、子どもたちの笑顔に出会って、そんな苦勞も吹っ飛んでしまつて……」と福岡さん。

また、吉崎さんは「障害児がいるいないにかかわらず、どの家庭でも悩みがあると思います。不登校とか引きこもりとか、いろいろな悩みを二人で解決しようとするのはむずかしい。同じ悩みを持つ人たちと交流し、プラス思考で解決していけたらいいですね」。そして、平野さんは「やはり、障害児の行き場集まる場所というのはほんとに少ないです。みんなそういう場を欲しがっています。そして、私たちが作った基盤に若い力を期待したいと思えます」。



鹿島 一朗さん
(鹿児島市)

いつかは自分も…という思いが 200ページの小説にまとまりました。

私は、幼い頃から文を書いたりする一人遊びが好きでした。映画やアニメも大好きで『宇宙戦艦ヤマト』や『砂の惑星』には心おどらせたものでした。作家では、松本零児さんや手塚治虫さん、それにスティーブン＝スピルバーグがいいなあと思います。手塚治虫博物館にも行ったことがあるのですが、それはそれは大感激！そうした人たちの作品を見たり読んだりしながら、いつかは自分もあんな作品をと、思ひ、昨年の夏に『銀河三国志』というSF小説を書き上げることができました。構想2年執筆8年で、完成までに10年の歳月を費しました。三国志という歴史物語をリメイクするのは、とてもむずかしく、完成した時はほんと嬉しかった。人を愛することや許すことの大切さをテーマに書いたのですが、どれだけ伝えられたかなという思いです。

誠光園で定期的に出されている文集にも執筆しています。先々は映画やアニメなどを作ってみたいし、俳句などにも興味があります。また、作品を書くため科学技術に関することはもちろん、政治・経済・歴史などいろんな分野の情報に関心を持っています。バリアフリーなど障害者のためのまちづくりはずいぶん良くなってきていますが、さらにバリアフリー化が進んでほしいなと思います。



鹿島 一朗さん
1955年鹿児島生まれ。生後間もなく脳性麻痺をわずらい大阪へ転居。大阪で中学1年の途中で鹿児島へ移住。1980年鹿児島市犬迫町にある身体障害者療養施設「誠光園」に入所。大阪万博で見た太陽の塔は、今でも忘れられない。

創作に意欲的な鹿島さん

近代文芸社刊

視覚障害者にとって盲導犬は、まさに自分の目であり、体の一部です。ところが、そうした障害者の思いにもかかわらず、盲導犬に対してエサを与えるなど盲導犬との接し方を知らない人も残念ながら少なくありません。その盲導犬に対して、より多くの人に理解と協力を深めてもらおうと、今年七月七日に盲導犬チャリティコンサートを開こうという企画が、鹿児島市の有志によって持ち上がりました。

コンサートの企画段階から参加し、ステージでの演奏も披露したのが、鹿児島市の視覚障害者三人のバンド「トリプル・ツイスター」。メンバーはギターとボーカル担当の西村哲也さん、ベース担当の木村彰彦さん、そして実際に盲導犬を使用しているドラムス担当の鍋島敏明さんの三人。「トリプル・ツイスター」は、平成七年に三人で結成され、ブルース、ロックを主体にした演奏を行っています。小さいスペースでのライブ活動は数多くこなしてきましたが、大きな会場で、しかも県外のバンドや詩吟、自顕流などのジョイントは初めて。「自分たちで企画し

●ありば通心 視覚障害者バンド「トリプル・ツイスター」 盲導犬をもっと知ってと、 七夕の夜にコンサート

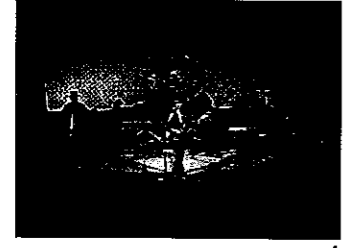


て始めたのですが、演奏以外のいろいろな手配がたいへんでした。でも、やり終えた時の満足感是最高。お客様や協力いただいたみなさんに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。」とリーダーの西村さん。ドラムス担当の鍋島さんは現在佐賀県に住んでいて、バンド練習のために盲導犬といっしょに鹿児島へやって来ます。鍋島さんは「音楽は人を動かす力をもっています。ぼくらがやっている音楽を聴いて、何かを感じてくれたらいいですね。ぼくは、どこへ行くにも盲導犬といっしょですが、ホテルの宿泊やタクシーへの乗車を

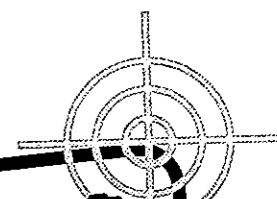
断られたり、まだまだ盲導犬への理解が浸透していないように思います。このコンサートを期に、音楽活動を通して盲導犬のことをもっとアピールしていきたいですね。」と語ります。さらに、メンバーの中で弱視の木村さんは「わずか一段でも段差があれば、私たちがは大変です。なにか目印があれば助かります。自分たちが音楽をする時も、移動に際して機材を運んでもらったり、だれかに頼らないとやっていけないし、協力していただいている皆さんへの感謝も含めて、チャリティで集まったお金は、盲導犬協会やアイメイト協会へ贈らせていただきます。」やり遂げた喜びと大きな感謝、そして観客と一体となった思いがみんなにやさしいまちづくりへと変わっていきます。



- 1. ベースを早く自分のものに。と木村さん
- 2. ブルースを究めたい。と西村さん
- 3. 原点をいつまでも。と鍋島さん
- 4. 盛況だった盲導犬チャリティコンサート



※道路交通法に基づき、国家公安委員会が指定している法人で盲導犬の訓練を行っている。
■(財)日本盲導犬協会 TEL.03-3375-8201 <http://www.jgda.or.jp/> ■(財)アイメイト協会 TEL.03-3920-6162 <http://www.evernate.org/>



KAGOSHIMA

バリアフリー最前線

Barrier Free-Saizensen

鹿児島県のいろいろな建物や施設、あるいは人の心の中にあるバリアが取りはらわれています。一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

工夫を凝らした歌と演奏に会場がなごむ



なコンサート会場で演奏することもありますが、ホールはらの主な発表の場は特別養護老人ホームや身体障害者施設など。要請があればどこへでも出かける。コンサートは、コーラスだけではなく楽器による演奏、小道具を使った寸劇に歌を折り込んだもの、聴衆を巻き込んだ大合唱など、プログラムに工夫を凝らしている。活動をはじめたころは、施設に入所している方々を前に思わず涙してしまつた。自分たちの歌を心から楽しんでくれる姿が、逆に自分たちの活動のエネルギーとなっていることに気付いたという。ホールはらの指導者である池田泰子さんは「私たちの歌を聴いてくれたが喜んでくれればもっと励みになります。」と語る。

癒しの郷「カレン」がオープンしたのは今年四月。木造平屋で、車いす用のスロープやトイレが備えられ、室内には喫茶店風のカウンターやテーブル席が設けられている。本棚に並ぶ本も多岐で、子どもから高齢者までだれでもゆつくり楽しめる雰囲気になっている。

この施設を開いたのは、タイの山岳に住む少数民族カレン族との交流や自主支援などの活動を十年来続けている「カ

FILE No.1 障害者の立場で考えたらこんな住まいになりました。

栗野工業高校

(給良郡栗野町) 0995-74-2021



立休駐車場、車の前方から入り、そのまま前方へ出て行くものがある。車の方向転換をしなくていいから安全かつ便利である。この原理を住まいのエレベーターに応用し、車いすを回転せずに乗り降りできるようにしたのが、栗野工業高校建設工学科の生徒だった。こうしたアイデアを随所に盛り込み、鹿児島県建築士会が主催した平成十三年の「建築設計競技」で、見事に銀賞に輝き学校賞も受賞した。設計にあたった学生は、栗野町の「いきいきセンター」の郷りで、みずから車いすを使っている人な体験をし、その体験の中から不便な



設計の指導にあたった立野教諭

レンの会「事務長の元看護婦中村睦子さん。中村さんは「カレンの会」事務長のほか民生委員としても活動してあり、

FILE No.3 癒しの郷カレン

(曾於郡有明町) 0994-75-2034 (中村さん)



町内を定期的に巡回する中で、一回もコーヒーを外で飲むことがないとおっしゃる車いすの高齢者に出会った。「私が、ゆつくりコーヒーを飲む場所を作るから」「そうしたらやりとりの中から生まれたいのが癒しの里「カレン」だ」といふ。

オープンの日には町内外から十数名の障害者や高齢者とともに総勢八十名で癒しの里「カレン」のスタートを祝った。六月の会合では車いす使用者五名を含む総勢八十名が集まるなど、近所の子供たちや外出先が限られている高齢



「地域の交流の場になれば」と中村さんご夫妻

分を解消していったと云ふ。

栗野工業高校は総生徒数が百七十名で、電子機械科と建設工学科に約半数ずつが学んでいる。建設工学科には「こそくり大工」という活動があり、これは原則として町内にお住まいの高齢者や障害者など、住まいの改修や修理がむずかしい世帯からの要望に応じて、材料費だけでリフォームを行うというもの。雨樋工事や外壁張替えなどを通して、地域に支えられ、地域に開かれた学校としての取組みが続けられている。



歌を聴いて喜ぶ人がいる、だから、もっといいコーラスを。

FILE No.2 コールはらら

(鹿児島市原良町) 099-254-7705 (石川さん)

来年で創立十五周年を迎えるママさんコーラスグループの「コールはらら」。一九九〇年の鹿児島市立原良小学校創立三十周年記念行事の場で発足した経緯をもつ、原良小学校区の主婦を中心に、平川や都城など校区外からのメンバーも合わせ四十五人が週一回の練習に励んでいる。県合唱祭など立派

C O L U M N 1



住み慣れた地域で過ごす楽しさ シーサイドハウス (垂水市新城)

集落内にあるごく普通の民家のたたずまい。車いすの方が利用しやすいようにスロープを設けた段差をなくしてあるが、まるでわが家のような雰囲気、目の前には砂浜と錦江湾がひろがり、海からの風が心地いい。特別養護老人ホーム鹿屋長寿園が6月に開設したサテライトケアの拠点「シーサイドハウス」である。炊事場ではボランティアと利用者が一緒になって食事を作り、散歩や釣りを楽しんでいる。まさに、生活を楽しむという視点に立った施設である。

0994-43-2546 (鹿屋長寿園)

者や障害者の地域に集まる交流の場として徐々に定着してきている。

医療・福祉・教育の専門家が連携して治療にあたる 県内初の情緒障害児短期治療施設

FILE No.4 鹿児島自然学園

(日置郡山町) 099-245-6630

すばらしい自然の中に建つモダンな学園



四月に開校した鹿児島自然学園である。こうした施設は情緒障害児短期治療施設と呼ばれ、県が策定した「鹿児島県のひびき子どもプラン」に込めて整備された。

鹿児島自然学園には、現在入所十三名、通所十一名の児童が学んでおり、学園内では心理治療・生活場面治療といつしまに学習指導が行われている。同学園は緑に囲まれ、地域住民も参加した四月の運動会は大いに盛り上がった。学園内の交流スペースは地域の活動などにも利用されるなど、地域に開かれた学園づくりを目指している。

地域には十五軒の民家があるが、鹿児島自然学園は十六軒目の家としてとけこみつつある。

C O L U M N 2



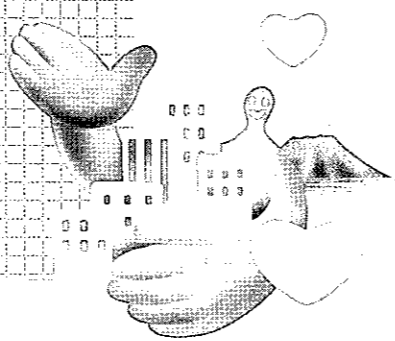
地域に根づいた活動为目标に 交流を深め、気持ちを伝える。

始良・国分地区手話サークルZERO (国分市)

毎週火曜日(第1・2・3・4週)夜の7時、国分シビックセンターの一室に主婦、社会人、聴覚障害を持つ人たちが集まり、身ぶりや手話を使っての会話が始まる。その後、五〜六人がグループになって伝言ゲームなどを楽しみ、終始リラックスした時間が流れていく。手話サークルZEROは、一昨年4月に設立された。手話を通して「聞こえない」ことの大変さを実感するメンバーは、体験談を聞いたり、研修会を開いて、交流の窓口をさらに広げようとしている。

●日時:毎週火曜日(第1・2・3・4週)、PM7:00~PM9:00
●場所:国分シビックセンター3F
●TEL・FAX:0995-63-0068 (小野田さん)

鹿児島県からの お知らせ



10月1日から 「身体障害者補助犬法」が施行されました!!

■目的

身体障害者補助犬の育成及び施設等の利用の円滑化を図り、身体障害者の自立及び社会参加の促進に寄与します。

■定義

「身体障害者補助犬」とは盲導犬、介助犬及び聴導犬をいいます。

■主な内容

●施設等における身体障害者補助犬の受入れについて

- ①国、地方公共団体、公共交通事業者、不特定多数の者が利用する施設の管理者等は、それらの施設等を、身体障害者が利用する場合、身体障害者補助犬の同伴を拒んではいけません。
※不特定多数の者が利用する施設の管理者に関わる部分は、平成15年10月1日からの施行になります。
- ②事業主や住宅の管理者は、補助犬を使用することを拒まないように努めなければなりません。
- ③そうした施設等を利用又は使用する身体障害者は、その者のために訓練された身体障害者補助犬であることを表示しなければなりません。

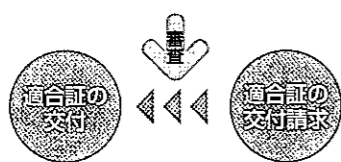
●身体障害者補助犬の訓練及び認定等について

- ①介助犬及び聴導犬の訓練事業を第二種社会福祉事業とします。
※平成15年4月1日からの施行になります。
- ②厚生労働大臣は、身体障害者補助犬の訓練又は研究を目的とする公益法人や社会福祉法人であって、身体障害者補助犬の認定業務が適切に行なうことができるものを指定します。
- ③指定を受けた法人は、身体障害者補助犬として育成され申請された犬について、他人に迷惑を及ぼさないことや適切な行動を取る能力をもつと認める場合は、その旨の認定を行わなければなりません。
※なお、「身体障害者補助犬法」の施行に伴い身体障害者補助犬の育成及びこれを使用する身体障害者の施設等の利用の円滑化のための障害者基本法等の一部が改正されました。



バリアフリーな施設をアピール

【福祉のまちづくり条例適合証】



適合証の交付が受けられます。

公共的施設を所有し、または管理する人は、その公共的施設が整備基準に適合しているときには、適合証の交付を請求することができます。
建物の正面玄関などに掲示し、バリアフリーな施設であることをアピールしましょう。
問い合わせ先：県障害福祉課 099-286-2111 (内線2743)

あれば掲示板①

車いすダンスを、こいっしょに! ～バリアフリーふれあいスポーツ講習会開催～



ワンツー、ワンツーと軽やかなステップで

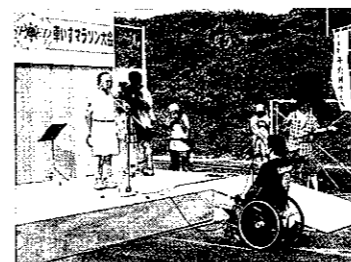
サンバやタンゴのリズムに合わせて、スタンドと呼ばれる立って踊る人とチェアと呼ばれる車いす使用者が、軽快なステップを踏んで社交ダンスを楽しむ。この車いすダンスを指導するのは、指宿市身体障害者福祉協会の会長で車いす社交ダンス普及会「矢車草の会」認定インストラクターの西原孝二さんとボランティアの人たち。おそろいのユニフォームの背中には「Shall Wheel Dance?」と格好いい横文字が踊っている。車いすダンスは、県総合運動センターが主催する平成十四年度バリアフリーふれあいスポーツ講習会のカリキュラム



「だれでも気軽に楽しめます」と西原さん

の一つで、県内各地で開催。講習会には保育士や福祉施設職員などの参加が多く、スタンドの踊り方を学び、次にチェアの動きをマスターする。動きができるようになれば、後はペアを組んで音楽に合わせて、ワンツー、スリーと楽しめばいい。常時車いすを使用している人であれば比較的短時間でひと通りマスターできる。ペアは男女でなければならぬという規定もないので、思い思いに社交ダンスの楽しさを味わうことができる。現在、鹿児島県には鹿児島市、鹿屋市、国分市、川内市、出水市に支部があり、西原さんは各市町村に一支部をとという目標で普及に取り組んでいる。

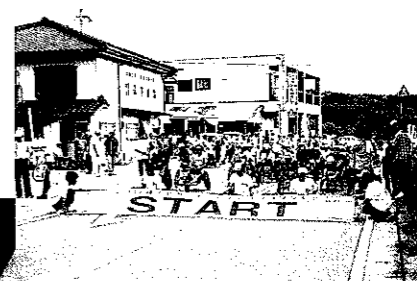
夕陽を眺めながら、海沿いの道を駆けた ～第四回種子島サンセット車いすマラソン大会～



力強い選手宣誓でムードは最高潮に

種子島の美しい海岸沿い、しかも夕陽を眺めながらの車いすマラソン大会も今年で四回目。選手にとっても地元の人たちにとっても、すっかり定着した感がある。さて、今年の大会は、台風で天候が心配されたが、七月十三日午後五時過ぎにスタート。ハーフ(二十一・〇九七五キロ)の部と自己申告タイムとの差を競うトリムの部に分かれて行われ、ハーフの部では大分県の廣通純選手が四十六分五十一秒の好タイムで優勝、この大会三連覇を達成した。女子の部では五人が参加し、神戸市の川島由美選手が優勝。また、トリムの部では、徳島県の工藤功選手が自己申告タイム

ムとの誤差十三秒で優勝という結果だった。尚、この大会で最も人気を集めたのは、大会史上初参加の「車いす」犬モモ。モモは、種子島の中種子町で獣医師をしている坂口英明さんが飼っている車いすを使用する犬である。トリムの部にエントリーし、疾走するモモに沿道からあたたかい声援がおくられた。大会は約六百人のボランティアに支えられ様々な交流の輪も広がった。



Q1 このマークのある
駐車場の意味を
ご存知ですか？



A ここは、車いす使用者のた
めの駐車場です。
したがって、一般のドライ
バーの方は、この駐車場の
利用を遠慮してください。

Q2 なぜ、広いスペースを
とってあるの？



A 車に乗り降りする場合、人だけではなく車いすの積み下
ろしがありますので、どうしても広めのスペースが必要
になります。ほぼ、ドアを全開した幅くらい確保しておか
ないと、乗り降りがむずかしいです。

???
バリアフリー
Q&A

*車いす使用者用駐車場は、施設の入口近くに設けることになっています。便利な場所にあるため、空いている時に一般の方が止めているケースがよくあります。こうしたマナー違反がないよう皆様のご理解とご協力をお願いします。

福祉のまちづくり協議会
ありば

「バリア」の逆は「ありば」。
バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、
「ありば」というタイトルにしました。
みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。
人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介します広報誌、
それが「ありば」です。

【感想をお寄せください】

鹿児島県保健福祉部障害福祉課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
TEL.099-286-2111(内線2743) FAX.099-286-5558
[E-mail] shougai@po.pref.kagoshima.jp

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へご連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視聴覚障害者情報センター(鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアがこしま3F TEL.099-220-5896)に備え付けてあります。